

工 化 1961

時 報



5

1991 年 工

部 刊



目 次

卷 頭 言	1
庶務委員会報告	2
会計委員会報告	6
名簿委員会報告	11
会 員 消 息	
植村治氏の便り	12
一新会々員消息	14
杉本英次氏の死を悼む	15
母 校 だ よ り	
本学関係の学位授与者	17
三十六年度工学祭及び本年度の各研究会	18
活 動 状 況 に つ い て	
最近の就職状況に閉して	22
理工学部学術講演会開かる	23
研究業績総覧	25
編 集 後 記	30

巻 頭 言

名 取 康

工化会が発足以来満3年を経、工化時報も才5号発刊の運びとなり、この間の編集委員の御努力に敬意を表す次才です。特に学生委員は何代かに亘つて活躍されているが、このことはこれから体験される実社会で大いに役立つものと信じます。所謂学生だけのものや何回卒の集りといつた横のつながりのものでも相当努力を要するのに、この先輩から学生までの縦のつながりのものでは大変なものです。

一つ一つの記事の価値というよりもそれらの集合体に価値があると思います。

扱て、工化会の発足のときその機関紙の性格について論議されてアカデミックなセンスを入れたいというのに対して日本大学工学研究年報があるから、工化時報は親睦的なものとするというので、工化会報という会の字も時にしたように思います。工化会が更に発展し日本大学工業化学会となり工化会報となることを願うのは、私一人だらうか。また、親睦的なものなら工科校友会がありその各科活動の一つとしても出来るし、また、各科活動が盛になることにより工科校友会も発展するものと思う。校友会を正しくながめ正しく育てなければならぬ。従つて工化会の在り方も検討さるべき段階ではなからうか。更に、工化時報がどのような発展過程を辿るか期してまつものの1人として筆をとつた次才です。

(旧制学部2回卒・技術士)
三共株式会社大阪工場次長

庶務委員会報告

35年度経過報告及び36年度新役員

35年度(35.10.1~36.9.30)は全く新しいスタッフで出
発した庶務委員も、前委員(玉置副会長)及び会員諸兄の適切
な指導のもとに会の育成と繁栄のために努力して参り、今日迄
下記の通り役員会、評議員会、総会を開き円滑な運営を行つて
来て居ります。

○35年度才1回役員会 S.36.2.4 午後5.30~
於5号館807号室

出席者 玉置副会長 他21名

主な議題 1.工化会々員名簿の追加訂正版発行の件
2.工化時報4号発行の件
3.会則一部改正の件
4.会費納入した場合の領収書の件
5.その他

35年度才2回役員会 S.36.9.15 正午~
於5号館807号室

出席者 中原会長 他19名

主な議題 1.故杉本評議員の慰霊碑設立募金の件
2.工化会々費(10年会費)の保管方法
3.工化時報5号を11月発行に関する件
4.工化会々員名簿の追加訂正版発行の件
5.評議委員会、総会開催の件
6.その他

提出議題の決定事項は各委員会報告を参照され度し、
尙役員会終了後引続き工化会有志会を開き故杉本評議員の慰
霊碑設立募金に関し次の如く決定し早速募金を行つた。

工化会有志代表 玉置先生

募金額 1人 200～300円

評議員、役員中より募る

会員各位の御賛同を得まして、玉置先生より慰霊碑設立基金の一部に贈呈致しました。

○ 35年度評議員会 S.36.10.21 午後6時～

出席者 中原会長、玉置副会長 他51名

- 主な議題
- 1.各委員会経過報告
 - 2.次年度役員、評議員候補選出
 - 3.次年度予算案審議
 - 4.総会スケジュールの作成

○ 36年度総会 S.36.11.3 午後6時～

於5号館3階会議室

出席者 中原会長、玉置副会長 他49名

中原先生(会長)の挨拶に続き東田政治氏(旧学1回卒)を議長に選出、次の議事に従つて会を進めた。

- 1.各委員会年度報告
- 2.会則一部改正案の説明
- 3.新役員、評議員の選出
- 4.次年度予算の審議
- 5.その他

可決事項

1.昭和36年度役員

会長	中原	万次郎(工化主任教授)
副会長	玉置	弥栄(旧学4、工化助教授)
"	田所	利男(高工3、三楽酒造株)
監事	山崎	喜三郎(旧学3、山之内製菓株)
"	鈴木	昌科(学2-1 日本レダリー株)
"	石田	勝彦(学1-2年生)
"	(未定)	(学2-1年生)

- 庶務 芝 宮 福 松 (旧学11 工化講師)
 " 植 竹 和 也 (学2-4 工化助手)
 " 赤 池 昭 彦 (学1-2 年生)
 " (未 定) (学2- 年生)
- 会計 伊 藤 舜 介 (旧学5 工化講師)
 " 鈴 木 一 郎 (学1-5 株ランチョン)
 " 吉 崎 猛 (学1-3 年生)
 " 青 木 輝 男 (学1-2 年生)
- 会報編集 穴 沢 一 郎 (旧学5 工化助教授)
 " 市 川 次 郎 (学1-1 工化助手)
 " 高 橋 宏 (学1-3 年生)
 " 松 田 英 三 (学1-2 年生)
 " 津 覇 護 (学1-2 年生)
 " 青 木 章 (学1-2 年生)
 " (未 定) (学1- 年生)
 " (未 定) (学2- 年生)
- 名簿編集 上 野 敦 行 (学2-2 工化助手)
 " 南 山 齊 (専8 株三信通信社)
 " 大 橋 隆 (学1-3 年生)
 " 永 原 庸 男 (学1-2 年生)
 " 武 田 幸 久 (学1-2 年生)
 " (未 定) (学2- 年生)

2. 新評議員

次の方が新しく評議員になられ、他殆んどの方は留任して戴くことになりました。

- 上 野 利 男 (高工4回) 東 田 政 治 (旧学1回)
 加 藤 泰 正 (旧学9回) 清 水 吉 一 (旧学10回)
 生 沢 昭 三 (旧学11回) 岩 島 聰 (学1-5回)
 小 池 清 (学1-5回) 宮 崎 健 三 (短2-10回)

3. 会則一部改正については原案通り可決

又13条3項会報編集は8名に改正

4. 次年度予算については会計報告を参照され度し。

総会終了後懇親会を行い、永井彰一郎先生、山本洋一先生の有意義なお話しなどもあり、談笑のうちに8時30分散会致しました。

総会懇親会出席者（順不定、敬称略）

中原 万次郎（工化教授）	永井 彰一郎（工化教授）
山本 洋一（#）	大木 喬（旧学 4）
玉置 弥栄（旧学 4）	芝宮 福松（旧学 11）
植竹 和也（学2-4）	清水 史彦（学2-8）
住吉 吉雄（専 2）	宮崎 健三（短2-10）
恒松 隆雄（短2-10）	太田 武一（旧学 5）
関谷 道雄（旧学 7）	東田 政治（旧学 1）
穴沢 一郎（旧学 5）	江部 明夫（学2-6）
中沢 利勝（学1-5）	佐藤 寿（旧学 6）
稲垣 甫（学生3年）	松田 英三（学生2年）
野口 義恭（学生3年）	西山 孝彦（学生3年）
津覇 護（学生2年）	原 正樹（学生3年）
井野 二陸（学生3年）	高橋 宏（学生3年）
森山 俊信（学生3年）	邑上 親由（学1-4）
東田 政治（旧学 1）	宗村 行庸（学1-6）
入倉 芳郎（旧学 12）	佐藤 寿（旧学 6）
鈴木 昌利（学2-1）	奥谷 忠雄（学2-4）
小倉 昭彦（学2-9）	中川 重雄（専 1）
松尾 孝（学1-8）	安達 昭郎（学1-9）
山崎 喜三郎（旧学-3）	折口 和範（学1-8）

以上

会計委員会報告

35年度総会に於いて昭和35年度会計報告並びに昭和36年度予算案を提出説明しました所これを承認、可決されましたので本誌にて会員皆様に報告致します。

工化会も名簿増補版も出来あがり皆様の役に立てばさいわいと存じます。又36年度より工化時報をもつと立派なものにしたいと役員一同はりきつております。現在の所会費の徴集率は正会員100名前後(十年会費含む)であり、卒業者数5,000名に達している現在もう少し正会員の皆様の御協力を得ることが出来れば工化会も、もつと発展するのではないかと思います。したがつて36年度は正会員の皆様を対称として会費を徴したいと思しますので御協力お願い致します。

なお、会費は正会員年会費200円、十年会費1,000円、学生会費100円であります。

会計報告は各監事に証拠書類と照合の結果相違ないことを報告し、これを承認されました。又監事並びに会計は各部問委員会の収入、支出の照合の結果相違ないことを承認致しました。

会計委員 伊藤 舜 介(学 5 回)
鈴木 一 郎(新学1部5回)
齊藤 一 郎(学部1部4年)
吉 崎 (学部1部3年)

収 入 の 部

項	目	予 算	決 算	備 考
経 常 費	会員収入 正会員会費	円 50,000	円 16,400	
	十年会費	0	11,000	
	学生会費	95,000	112,600	
	名簿売上金	100,000	21,750	
	補助名簿売上金(予約)	0	24,200	
臨 時 費	広告料収入	8,000	0	
	総会残金		1,000	
	予金利息収入		65	
繰 越 金	34年度繰越金	20,512	20,512	
合 計		273,512	207,527	

支 出 の 部

項	目	予 算	決 算	備 考
経 常 費	庶 務	27,000	19,141	
	3 5 年 度 総 会 費	7,000	5,000	
	会 議 費	5,000	2,640	
	時 報 郵 送 費	10,000	10,501	
	運 営 費	3,000	1,000	
	通 信 費	2,000	0	
	会 計	18,800	3,724	
	通 信 費	1,200	1,000	
	交 通 費	12,600	0	
	運 営 費	5,000	2,724	
	会 報	143,600	68,170	
	時 報 刊 行 費	32,000	67,500	
	編 集 費	6,600	0	
	運 営 費	5,000	670	
	名 簿	30,000	43,388	
	郵 送 通 信 費	5,000	0	
	広 告 手 数 料	10,000	0	
	名 簿 訂 正 調 査 費	10,000	2,500	
	名 簿 印 刷 代	0	40,000	
	運 営 費	5,000	888	
	学 生 会 員 活 動 援 助 費	15,000	15,000	
予 備 費		9,112	0	
十 年 会 員 会 費 積 立 金			1,1000	
次 回 名 簿 作 製 積 立 金		3,0000	30,000	
次 年 度 へ 繰 越 金			17,104	
合 計		273,512	207,527	

資 産 の 部

項 目	数 量	単 価	金 額	備 考
旧 会 員 名 簿	279冊	円 50	円 13,950	35年度名簿編集として 使用 35冊
10年会費定期預金積立金	11人	1,000	11,000	
名簿作成積立金			30,000	
合 計			54,950	

収 入 の 部

項 目	予 算	備 考
経 常 費		
会員収入		
正会員会費	} 100,000円	年会費として
10年会員会費		
学生会員会費		
補助名簿売上金	211,300	
臨 時 費		
広告料収入	290,000	
郵 送 料	35,000	補助名簿発送費
繰 越 金	35年度繰越金	17,104
合 計		773,404

支 出 の 部

項	目	予 算	備 考
経 常 費		637,600円	
	庶 務	27,000	
	37年度總會費	7,000	
	会 議 費	5,000	
	時 報 発 送 費	10,000	
	通 信 費	2,000	
	運 営 費	3,000	
	会 計	18,800	
	通 信 費	1,200	
	交 通 費	12,600	
	運 営 費	5,000	
	会 報	184,300	
	会 報 刊 行 費	176,000	
	編 集 費	5,300	
	運 営 費	3,000	
	名 簿	387,500	
	印 刷 費	215,000	
	広 告 手 数 料	116,500	
	郵 送 料	35,000	
	ア ル バ イ ト 代	10,000	
	名 簿 調 査 費	8,000	
	雑 費	3,000	
	学生会員活動援助費	20,000	
基 金	次回名簿作製積立金	40,000	
予 備 費		95,804	
合 計		773,404	

名簿委員会報告

一昨年11月、工化会の職域別会員名簿を作り、皆様から大変重宝がられて参りましたが、会員の方々の勤務先、住所などの変更が多数にのほり、又昨年及び本年春卒業された方々が新に正会員(611名)とされましたので、今回初版の訂正(521名)を兼ねた増補版として、9月に発行する予定で準備致して参りました。しかし広告掲載事務などの遅れに依り約2ヶ月遅れ11月3日に発行する事となりました編集委員の不手際を深く御詫び申し上げます。今回は特に学生会員との関係を密にする意味で一年生も加えました。是非ともこの増補版を初版と共に御使用になられます事を御すゝめ致します。

尚、学校で直接に御求め下さる方は1部150円(郵送料別)で、次の上野先生、玉置先生、伊藤先生、市川(次)先生、就職係伊藤さんの各研究室に御座居ます。今春卒業された方で予約金100円を払い込まれた方には申し訳け御座居ませんが、所得倍増の影響を受け、印刷費その他の値上りの為郵送料で50円値上げの止むなきに至りました事を御諒承下さいませ御願ひ致します。

尚、会員の方で勤務先、住所など変更が御座居ましたら、日大理工学部工業化学科内名簿編集委員、上野敦行先生宛御連絡下さい。

(名簿編集委員 大橋 隆)

〔 会 員 消 息 〕

穴 沢 一 郎 様

1961-8-22

ウジミナス製鉄所

植 村 治(学 11)

謹 啓

署さの折、益々御健勝の事とお慶び申し上げます。大変御無沙汰して申訳ありません。当地へ到着以来早くも2ヶ月半が過ぎてしまいました。初めての海外生活の新しい建設と山積する仕事に追われ、皆様にもなかなかお便り出来ず大変失礼致しました。

出発の際はわざわざ羽田までお見送り賜り、更めて厚くお礼申し上げます。

ヨーロッパ経由のブラジル迄の旅行は見るものすべてが珍らしく大変楽しい思い出となりました。当地へ到着してすぐ仕事に取組んでおりますが幸運にも本社勤務でMinas Gerais 州首都 Bel Horigonte 市に住んでいます。仕事は本社技術部で燃料関係の調査であります。

製鉄所の操業開始に備え、原料炭、重油等の燃料及び化学副原料の購入準備及び製鉄所化成品の市場調査等、盛沢山で弱つています。

何と云つても言葉がポルトガル語ですから日本でする仕事の2～3倍の時間と労力を要します。又、ブラジル人と協力してやっつて行く事も大変な努力であります。然しお蔭様で一同元気でおりますので何よりかと思つています。Beio Horigonte の街は南緯約 20°、Rio de Janero の北西約 300 Km にあり、人口約 60 万のブラジルオ 4 の都会です。標高約 900 m の高

地ですから夏でも涼しいそうです（現在は当地は冬ですが一日中約23～25°Cの気温です）

20階建位の高層建築が南国の青空に美しくそびえています。ここにUSIMINASの本社がある訳で日本からの派遣者が約20名、それにブラジルで採用された日系人約40～50名が働いておりますので会社へ行つても殆んど日本と変わりありません。建設中の工場はこのBelo Horigonteから更に北東約200Kmの山奥にあります。

現在工事は活況を呈しており、来年3月高炉火入れを目標に努力しておりますことには日本からの派遣者約70名が居ます。大変不便な処ですが頑張っております。

ブラジルは過去50年の日系移民の伝統のある処なのでこのBeloの街でも味噌、醤油（いずれもサンパウロ製）が入り手出来ずし、ブラジル人は米食しますので殆んど日本と変らない食生活をしています。

物価はインフレのためかなり高いですが食料品は安いです。その代りうまい物はありません。仕事の関係で工場建設現場Rio de Janeiro, São Paulo更に南部のSanta Catarina州等迄、既に数回の旅行をしました。いずれも飛行機を利用します。（鉄道は非常におくれており、却つてバスが発達している）飛行機で5時間も飛んでもやつと2つの州位しか旅行してないのでからブラジルの大きさには驚いています。

各地へ航空路が伸びており、一寸した街には必ず飛行場があります。20階、30階の高層建築が立ち並んでいます。（私の住んでいるこのアパートも16階建）すばらしい道路が荒野の中を真直ぐに走っております。

この反面、街路には紙屑が散乱し、乞食の群がさまよつています。1930年代の古ぼけた自動車が1961年型の新型車の中をいばつて走っております。超近代的と前近代的が混然として

いる姿がブラジルの現在の姿です。

この姿が工場の建設や会社の運営にそのまま現われて幾多の困難な問題を生じています。何か、国全体が進歩しているのではなく、一部だけが発展している国です。

この国が全体的に動き出したら米国、ソ連に次ぐ偉大な国になるのではないかと思います。本当に未だ若い国です。従つてこの国に日本の企業が進出しておく事は必要な事だと思います。残暑きびしき折、お身体御自愛の程はるかにお祈り申し上げます。

市川先生を始め、皆様によろしくお伝え下さい。

敬 具

一新会(1952年3月新制1部卒)会員消息

和井内 徹氏

カナダへ留学、今年3月学位を得られた。

10月より1年間の予定でカナダのフアリフアックス市漁業調査会付属研究所のアイドラー氏の下で研究すべく招かれ、去る9月27日出立された。最近の便りでは元気で研究されている由、同市には日本人は氏一人らしい様子

松 田 雄 一氏

登山家として有名な松田雄一氏は日魯魚業勤務として社用の為ヨーロッパへ9月16日羽田を出発、北歐デンマークに出張さる。山好きの同氏は帰路アルプスに廻られたようである。

秋 葉 一 郎氏

アメリカに出張、旭電化勤務の秋葉氏は9月25日空路にてアメリカに出張された。約3ヶ月の予定で技術関係の研究と視察をされる由

赤池俊光氏

通産省の赤池氏が前の石油課から再び軽工業局無機化学課に課長補佐として戻られた。

植山智氏

協和醸酵宇部工場から大協和石油化学に出向、東京在勤とされた。数年振りの東京生活をされている。来年あたり四日市に赴任されるらしい。

国分兼一氏

狐崎電機K.K今市工場工場長代理兼製造部長として今市に赴任。

相馬裕邦氏、兼松K.K、木野村房男氏、大成化薬東京出張所、門口隆実氏互協K.Kに夫々勤務先変更されました。

杉本英次氏（新五卒）の死を悼む

鈴木一郎

新制一部五回卒の杉本英次君（工化会評議員）が去る八月十九日、白山国立公園（福井県）で北美濃地震に遭遇し、落石のため亡くされました。

一行は六名で十九日の午後二時半頃あの地震に遭つたようで大地が大きく動き同時に激しい落石が起り、その内の大きな石が杉本君の前頭部に当り、声一つ立てることもなく他界されたそうです。全くの天災と云うより他に言葉もない災難で、亡くなられた杉本君及び御家族の方々に対しましては御気の毒と申し上げる他はありません。我々は逝去を悼み生前の思い出を永く心に留め、更に心安らかに眠られることを祈ります。

山歩きの好きな同君ではありましたが、余りにも意外な事実

に私はその不運を嘆くものであります。同級の者にも恐らく工化会にも惜しむべき人材を失つたものと申せましょう。

在学中にはクラス幹事や自治委員を三年間勤め、言わば友達甲斐のある人物でした。卒業後も彼の書類袋の中には友人の履歴書が必ず何通かは入つていたものです。工化会に就いても工業化学科の縦の連絡機関の必要性を常に提唱して、工化会復活の一助となつております。

今、その逝去を悼み関係者有志が遭難現場に慰霊碑を建設する計画が進んでおります。又、お世話になつた方々には早速に御礼に参り、併せて現場を調査できれば四十九日忌に碑を建てたいと関係者の方々が予定されております。ここに我々工化会々員は生前献身的に工化会発展に尽力された杉本君の逝去を悼み、何分の御協力をお願い申し上げる次第です。

母 校 だ よ り

本学関係学位授与者

工化会々員で最近学位を授与された方々が多く、会の発展の為にもまことに喜ばしいことゝ思われます。最近の状況について現在会報編集者の方で判つている方々には次の通りですが、既に学位を得られていて記載もれの方がございましたら御知らせ戴きたいと存じます。

会員中新しく学位を得られた方々

(昭和35.3.6年中) 判明者(順不同 敬称略)

小 島 和 夫(才11回)

回分精留に関する研究(日大理工工化)

関 谷 道 雄(学 6回)

石膏に関する工業化学的研究(工学院大)

和井内 徹(新学1回、大学院2回)

石炭乾留副産物に関する研究(日大理工工化)

山 田 翠(新学2回、大学院3回)

三硫化モリブデンに関する研究(日大理工工化)

田 島 栄 一(大学院2回)

アスファルトの老化に関する研究(田島応化)

安 房 信 輝(学部10回)

電気メッキの滲電圧管理に関する研究

(金属化学研究所長)

佐久間 正 敏(学部9回)

有機化合物の電解酸化還元に関する研究

36年度電化協会賞(棚橋論文賞)

- 佐藤 寿 (学部6回)
有機化合物のポーラログラフによる研究
(国立衛生試験所)
- 前島 敬一 (高工化3回)
ニッケル電解に於けるカソードフィルムの研究
(志村化工)
- 荒井 義 (学11回) 不明 (日東理研)
- 綱島 精三 (医博)
副腎ホルモンに関する研究 (国立公衆衛生院)
- 板垣 史郎 (医博)
Carzinophilinの抗腫瘍性に関する研究
(協和醸酵)
- 田中立 夫 (学10) (工博)
水産無脊椎動物油脂の研究 (名大工学部)
- 横山 彰 (学6) 不明 (札幌医大)

—以上—

36年度工学祭及び

本年度の各研究会の活動状況について

—真喜屋 繁(3年)—

今年度の工学祭で工業化学科は「石油化学」と「工業用水」を統一テーマとして展示を行う。以下工学祭と各研究会の動きについて簡単に書いてみよう。

統一テーマであるために、各研究会とも研究会自体の活動と工学祭のための活動がおのずから多少異ってくるが、今年度の工学祭に12の全研究会が自己の研究テーマを大きくくずす事なく参加出来る事は喜びである。

「石油化学」

有機系研究会が主体となり、石油化学の統一テーマの基に参加するもので、昨年の統一テーマ「石炭」に対し時代の流れに乗るものとして今年度は「石油化学」として展示を行う。このテーマを選択して具体的に活動してみると「石油化学」の分野が膨大なのにあらためて統一展示の困難さを感じてきたが、やつと何とかまとまりのあるものとする事が出来そうである。

「石油化学」の展示にあたって、“石油のやや全般にわたって展示し、石油が我々の生活にいかん利用されているか、その概念を与える”ことに我々は主眼をおいた。

燃料化学研究会 例年は石炭を中心に研究活動してきたが、今年度は石油にまで活動範囲を拡大。工学祭ではキシレンの異性体混合物よりP-キシレンの単離を行う他、展示会場において参観者の案内役を受け持つ。

化学工学研究会 石油化学に最も必要な工程である精溜塔の運転等を行う。その中でもUDE X装置一連の工程による脂肪族炭化水素から芳香族炭化水素の生成は注目されよう。

有機合成研究会 石油精製物より、塩化ビニル、スチレン、酢酸ビニル等の高分子系のモノマーの合成を主として行う。

高分子化学研究会 有機合成研究会で合成された各種モノマーを高分子化する他、合成樹脂一般に必要な加剤についても展示する。

染料化学研究会 染料の合成は毎年のことながら、今工学祭では石油から得られる原料を用いて染料の中間体の合成も行う各種染料の合成を行う。

食品化学研究会 毎年、植物から得られる食品を対象にしていたが、今年度から食品の合成にも手をのばしている。工学祭ではアニリンを原料とする甘味剤の合成を行う。

放射線化学研究会 今年度生れた研究会。核実験再開で注目

されている雨の中の放射能の測定を行つている。工学祭ではアクリルニトリルの放射線による重合を行う。

油脂化学研究会 これも今年度発足した研究会。各種界面活性剤の研究を行つている。工学祭では石油化学工業における界面活性剤の利用を中心に受け持つ。

「工業用水」

主として無機系研究会が担当、展示する。毎年台風シーズンになると各工業都市で地盤沈下が問題となつているが、今年は政界でもこれに注目し、すでに地下水使用を全面的に制限しようとする法案を準備している。今工学祭では、この工業用水の水源を地下水以外の河川や海水に求め、さらに出来るだけ多くの水を循環使用して用いようとするものである。展示会場においては、水の用途（例えば冷却水、洗浄水等）に応じて、河川の水や海水を適当に処理（例えばろ過、脱臭、イオン交換樹脂電気、その他による処理）して、工業用水とする事を試みる。このテーマに参加する研究会は、工学祭に関する限り研究会の枠をある程度はずし、総合的に「工業用水」についてまとめる。

無機工業化学研究会 海水処理において、蒸溜、イオン交換膜等による淡水化を行う。また、河川水処理においてろ過、脱臭、さらに脱塩を行い、飲用にするためにこれに加えて殺菌をも行う。神田川の汚水を処理して希望する方々へ飲ます由。

金属化学研究会 種々の工業用水による金属の腐蝕の程度を一目で理解させ、これに対する種々の処理方法を示してくれる。

電気化学研究会 やはり金属の防蝕を取扱い、これを電気防蝕を中心に受け持つ。

繊維素化学研究会 以上の研究会の無機系であるのに対し、「工業用水」のテーマでは唯一の有機系で、工場廃液による河川の汚れの状態をBOD等の測定により調べる。特に、パルプ

工業の廃液を中心として調査、発表する。

放射線化学研究会はこのテーマにも参加し、河川水のアイソトープによる水質試験を行う。

活動状況について

最近の就職状況に就いて

最近の日本経済の好景気を反映して、我が工業化学科の学生の就職に関しては非常に明かるい現状であります。国民の総生産が増大するのに対し、技術者の絶対数がそれに追いつけず、十年程前には日常用語に就職地獄という言葉が使われていたことを思うに昔日の感がする。現今の学生諸君はその言葉を聞いてもピンと来ないほど恵まれている。否、恵まれ過ぎていると申し上げても過言ではないと思われる。大会社がそれも工業化学という狭い範囲からでなく、商事、電気、放送、新聞に至るまでその業種を列記すると広範囲にわたり、比較的低賃金といわれる官公庁の職員には希望者が少ないことが最近の傾向である。

ここで私は学生諸君に敢えて苦言を呈したい。というのは、たゞでさえ少な過ぎると思われる大学生活が、単位制度もさることながら就職という目先の事柄にとらわれて、実質的な勉強に身が入らないということである。安易な心持で会社なり研究所なりで社会生活や研究生活を始められることを恐れる。実力をともなつた、本当に勉強し又、勉強し続ける人でなければこれからの社会生活や研究生活で打ち勝つて行くことは困難であらう。就職決定ということによつて更に勉強をしてもらいたい。

広い深い専門の知識を得ることはもちろん大切であるが、円満な人格形成という面からも他の事柄も決して忘れることはできない。特に語学ということに関してはその人の実力のバロメーターと云われ、横文字がスラスラと縦文字になる事が少くとも大学卒業者としての当然の事ではないだろうか。

十六年間という長い学校生活から実社会へ飛び立つということとは意義深いことである。単に学生服を脱ぎ、背広に着替えるということではないし、学生という特権を知らず知らずに身につけきたつている諸君には、社会の期待と責任というものがいかに大きいものであるかを力説してもし過ぎることはないであろう。

こういう恵まれた時代に就職する諸君にとつて、幸福というものに溺れず、安易な行き方をやめて、はつきりした自覚と誇りをもつて、残り少ない学生生活、更に実社会へと進んで行っていただきたい。

理工学部学術講演会開かる

去る十一月十一日及び十二日に日本大学理工学部学術講演会が本校に於て開かれました。特別講演その他それぞれ専門の立場から研究発表が行なわれました。

当日発表された研究講演は次のとおりです。

時 11月12日 午前の部(10:30~11:20)

場所 2号館22講堂

座長 教授 横 手 正 夫

補佐 講師 芝 宮 福 松

石炭乾溜ガス成分の研究

日大理工 市 川 次 郎

梶 山 秀 炬

平 子 俊一郎

芳香族スルホン酸塩のアルカリ融解の研究(一)報

P-クレゾールの合成

日大理工 中 沢 利 勝

二成分系気液平衡の推算について

日大理工 小 島 和 夫

越 智 健 二

(11.20~12:00)

座長 教授 工 藤 憲 資

補佐 助教授 玉 置 弥 栄

コムギ胚芽油から2.4メチレンシクロアルタールの分離とその
N.M.Rスペクトル

日大理工 田 村 利 武

松 本 太 郎

実用塗料の附着性

日本油脂KK 多 田 久二郎

午後の部 (13:00~13.50)

司会 助教授 笠 井 順 一

工化特別講演 接触分析について

教授 内 海 諭

座長 教授 庄 野 信 司

補佐 講師 平 井 長一郎

非分散型紫外光度計を利用した工場廃水の試験について

東工試 植 松 喜 稔

液状ポリサルファイドに依るエポキシ樹脂硬化について

A B C 商会 守 山 景 介

アルミニウムの陽極酸化皮膜の染色

都工業奨励館 三 田 郁 夫

(15:00~16:00)

座長 教授 黒 柳 安 二

補佐 講師 伊 藤 舜 介

アルミニウムの極部腐蝕機構に関する研究

都工業奨励館 福島敏郎

各種混合機の特性について

大野化学機械KK 清水貞雄

塩基性キヌボラ操業における二、三の問題

埼玉県鑄物試 笹原孝

鑄物砂の高温強度と加熱時間について

埼玉県鑄物試 松村英一

(以上敬称略)

研究業績総覧

—日大工業化学関係—

昭和36年度に発表された本学関係者の化学系統の業績をここに掲載いたします。

a) 氏名、所属 b) 題名 c) 掲載誌

(順不同、敬称略)

a) 穴沢一郎、植竹和也

b) ベンゼンの空気酸化によるフェノール生成に関する研究

a) 荒井康夫、漆原孝太郎、永井彰一郎

b) ジャモン岩よりリン酸マグネシウムアンモニウム肥料の試製(オ一報)

a) 内海 暎 他二名

b) チオシアン酸水銀法による塩素イオンの吸光度定量法

(改良法)

b) 微量シアンイオンの吸光度定量法

a) 山田 翠

b) アントラセンケーキの接触還元(1) 硫化モリブデン、ニッケル、鉄触媒

a) 和井内徹、市川次良、秋田穰

b) 骸炭炉ガスの成分(才四報) 工場炉と実験室炉との関係

a) 菊池光子、高橋フミヲ、庄野信司

b) 三硫化モリブデン触媒による ℓ -メントン d-ブレゴン、カルボメントン、 ℓ -カルボンの接触還元

a) 池村糺、福間健一

b) ポリエチレンテレフタレートのおキシエチル化合物(エチレンオキシド縮合体に関する研究(才二十報))

a) 横手正夫、黒木正胤

b) 2-6ジブロムベンゾナフテノンのP-トルエンスルホンアミドによるアミノ置換

a) 長谷川稔、辰野高司、吉田朝子、永井順子

b) チオ酢酸のアルコール及びフェノールに対する反応性

a) 板橋国夫、吉田芳郎

b) P-トルエンスルホクロリドの接触還元によるP-チオクレゾールの合成

a) 板橋国夫、尾作嘉夫

b) ドデカンニトリルの接触還元によるドデシルメルカプタンの合成

a) 田村利武、松本太郎

b) トウモロコシ胚芽油の不ケン化物成分

a) 横手正夫、芝宮福松、富沢次男

b) キノリン酸とモノクロルフタル酸-(4)の混合原料から得られる銅フタロシアニン窒素同構体(塩素含有)

a) 玉置弥栄、中沢利勝

b) 糖溶液中における水酸化カルシウム溶解度の異常

a) 玉置弥栄、中沢利勝、荻野久継、田中経富

b) 果糖カルシウム塩の性質

—以上、日本化学会才十四年会議演要旨集より—

a) 宮森 宏

b) 酸化セルロースに関する研究(才二報)

過酸化窒素酸化による酸化セルロース(2)

c) 日本大学工学研究所彙報

a) 小島和夫

b) コンピューターを用いた気液平衡に関する一計算と蒸溜計算への応用

c) 化学工学協会(24年会)

a) 小島和夫

b) 二成分系気液平衡の計算法

c) 化学工学協会

a) 越知健二、小島和夫

b) 同 上

c) 物性定数シンポジウム

a) 笠井、下田、田所、中原

b) 可溶性無水石膏の水和機構

c) 石膏と石灰

a) 笠井、太田、中原

b) 塩焼石灰のアルカリ及び塩素量

c) 石膏と石灰

a) 中原、笠井、赤沢

b) 石灰の圧力消化に関する研究

c) 石膏と石灰

a) 笠井、中原

b) マグネシアセメントの水和機構

(Mg c l₂ 溶液に於けるMgOの過飽和とそのPHについて)

c) 工 化

a) 市川良正、穴沢一郎、邑土親由

b) 石油軽質溜分の自然着色に関する研究(1)

c) 石油学会誌才4巻5号

a) 市川良正、穴沢一郎

b) 同 (2)

c) 石油学会才三回講演会講演

a) 市川良正

b) アスファルトの曝露試験について

c) 石油学会才三回講演会講演

a) 穴沢一郎、植竹和也

b) M-クレゾールホルムアルデヒド樹脂の生成によるM-P
-クレゾールの分離

c) 工化誌63巻9号

a) 穴沢一郎

b) M-P-クレゾールのクロマトグラフ前端分析

c) コールタール誌12巻10号

a) 穴沢一郎

b) クロマトグラフ法によるM-P-クレゾール分離について

c) コールタール誌13巻1号

a) 市川良正

b) 最近のアスファルト

c) 石油学会誌

編 集 後 記

学部3年 高 橋 宏

工化時報才五号をやつと編集し終りました。発行予定より約一ヶ月も遅れましたことをおわび申し上げます。工化時報の存在意義は会員皆様の親睦にあり、母校との関連の手段にあると思います。私共編集委員一同更に有意義な工化時報にすべく鋭意努力研究いたします。

尙、工化時報才六号は五月に発行予定でありますので、会員消息等原稿をどしどし御寄稿下さい。また御意見、御希望がございましたらこれも編集委員にいただけましたらと思つております。

宛先は千代田区神田駿河台1-5

日大理工学部工業化学科内

工化会時報編集委員会

編集発行 工化会時報編集委員会

責任者 穴 沢 一 郎

発行所 千代田区神田駿河台1-5 日大理工学部

TEL (291) 0611~0615

印刷所 田中謄写堂 TEL (561) 2257

中央区宝町3-3

